# これから歯科医師をめざすみなさんへ

歯科医師の仕事は“むし歯を治す歯医者さん”としてだけではなく、
人の健康全体に関わる“口腔の専門医”として大きく広がっています。

## 健康全体に関わる“口腔の専門医”です。

歯科医師の仕事は、「むし歯」の治療自体はずいぶん減り、その代わり増えているのが、成人の８割の人が感染しているといわれる歯周病（放っておくと歯を失うだけではなく、糖尿病や心臓病など、他の深刻な病気にも結びつきかねません）、舌や口の中のがんなどの病気、口の周りやあごの病気などの診断・治療です。つまり、歯科医師の役割は、顎顔面口腔領域全般を扱う「スペシャリスト」なのです。

## 地域医療や高齢者ケアを支えていく一番身近なホームドクターです。

高齢者が物を飲み込むことが出来づらくなる「嚥下（えんげ）障害」には、神経や筋肉の衰えなどのほか、認知症が進行して口の機能が低下したり、自力できちんと歯を磨くことができないといった原因もあります。そうした病気で外出や通院ができない方や寝たきりの方のために、家庭や介護老人保健施設などを訪問して治療や機能訓練を行なう歯科医師が増えてきました。ワゴン車などで訪問診療に出かける“走る歯医者さん”の活躍の場は広がっています。

また、高齢の方に限らず、日頃から歯の健診や口腔ケアを行なっていると、からだの他の病気を発見できることもあります。

歯科医師が口腔医学だけではなく、全身について知識と理解をもち、国民に一番身近なホームドクターとして介護医療や終末医療にも関わっていく。つまり、新しい知識と歯科医療技術を身につけた歯科医師が社会から必要とされる時代になっています。

### 女性が活躍できる職業です。出産、子育て後の再就職も容易です。

ほとんどの歯学部では、男女を問わず就職率は 100％です。また、国家資格を持つ職業なので出産、育児での長期休暇後の職場復帰がしやすく、女性が活躍できる職業です。現在、女性の歯科医師は全体の 27％です。この割合は、年々増加しています。なお、29 歳以下では 49％が女性です。

### 今後、歯科医師不足が予測されます。

歯科医師が余っているというイメージが一部に広がっていますが、それは偏った見方といえます。

歯科・口腔の疾病の広がり、高齢化の進行、さらに予防のための定期検診の普及などにより患者さんがますます増えることが予想される一方で、歯科医師は高齢化に伴い、2020 年をピークに減少に転じました。今後は、多いどころかむしろ足りなくなる状況といえるでしょう。

2026 年 3 月の私立歯学部卒業者には、約 15 倍もの求人がありました。みなさんが歯科医師臨床研修を経て就職する頃には、求人倍率はさらにアップしていることが予測されます。

いま以上に歯科医師が社会から必要とされる存在となることは間違いありません。

### 日本の歯科医学教育は私学に始まり、歯科医師の約75％は私立大出身です。

日本の歯科医師養成は 100 年以上前に私立学校から始まりました。現在、歯科医師の約 75％は私立歯科大学・歯学部の出身者です。ですから、私立歯科大学・歯学部には日本の歯科医療を支えてきたというスピリットが息づいています。

これから歯科医師をめざす受験生のみなさん。ぜひ、私たちと一緒に歯科医療の明日を築いていきましょう。新しい可能性にあふれる歯科医療の世界に、あなたの夢を描いてください。